人気会計士が語る、小さな会社の経営“これだけ”（第10回）

「まさか」に備えて税金を払いましょう

2019.08.02

顧問先2200社を抱える会計事務所を率いる公認会計士、古田土満氏が語る小さな企業の経営のコツ。前回は、リスク管理の重要性を解説しました。今回も、引き続き「まさか」のときへ備える方法について紹介します。そのポイントはやはり内部留保を増やすこと。そのためには税金を払うことが必要になります。

増加する「まさか」の事態、備えは必須



人生には、3つの坂があります。上り坂、下り坂、そして「まさか」です。私は64歳を過ぎましたので人生の下り坂ですが、事業意欲（志）と事業は開業以来34年間上り坂です。その一方で、「まさか」がこのごろ増えてきました。想定外の出来事といってもよいと思います。

最近だけを見ても、東日本大震災による損害、原発事故による被害、AIJ投資顧問の破綻による年金基金への損失補填、デリバティブ取引による巨額の損失などがあります。

これらは全てうちのお客さまが「まさか」と思い、現実に損失を負担しています。世間を広く見渡せば、こうした「まさか」をきっかけに倒産した会社は多数あります。

「まさか」に対処するためには、備えることです。リスク管理とは、何を準備するかではなく誰を知っているかです。人生や企業にはさまざまなリスクがあります。全てに備えることは不可能です。そこで知人・友人を多くして、さまざまなリスクを解決するプロと友達になることです。

昔から、3人の友人を持てといわれています。医者と弁護士と税理士です。しかし、友人の少ない人でも方法があります。友人の多い人と1人だけ友人になることです。その人に紹介してもらえば、リスク管理ができる可能性がぐっと高まります。

税金を支払い、残った利益をコツコツためる… 続きを読む